

**WEST**

Generate Collection

L3: Entry 1 of 49

File: JPAB

Jun 6, 2000

PUB-NO: JP02000152757A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000152757 A  
TITLE: EDIBLE PRODUCT WHOSE COLLAGEN ODOR IS MASKED

PUBN-DATE: June 6, 2000

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

YOSHIFUJI, JUNKO

KOJIMA, NAOTO

FUJII, MIKI

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

SANEI GEN FFI INC

APPL-NO: JP10327150

APPL-DATE: November 17, 1998

INT-CL (IPC): A23 L 1/015; A23 L 1/00

## ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain the subject edible product containing the collagen good for health and beauty without deteriorating the good taste of the food and the smell of the product by adding a specific masking agent.

SOLUTION: This edible product whose collagen smell is masked contains sucralose. A masking agent for the smell of the collagen contains the sucralose as an active ingredient. The target edible product containing the collagen includes all products containing the collagen and capable of being taken from mouths, without especially limited, such as not only orally taken products capable of being orally taken, such as foods or oral medicines or quasi medicines, but also orally acceptable products not causing any trouble, even when taken in mouths, such as lip sticks or lip creams.

COPYRIGHT: (C) 2000, JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-152757

(P2000-152757A)

(43)公開日 平成12年6月6日(2000.6.6)

(51)Int.Cl.	識別記号	F I	テマコード(参考)
A 2 3 L	1/015	A 2 3 L	4 B 0 3 5
	1/00	1/00	G

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平10-327150

(22)出願日 平成10年11月17日(1998. 11. 17)

(71)出願人 000175283

三栄源エフ・エフ・アイ株式会社

大阪府豊中市三和町1丁目1番11号

(72)発明者 吉藤 淳子

大阪府豊中市三和町1丁目1番11号 三栄

源エフ・エフ・アイ株式会社内

(72)発明者 小島 直人

大阪府豊中市三和町1丁目1番11号 三栄

源エフ・エフ・アイ株式会社内

(74)代理人 100065215

弁理士 三枝 英二 (外10名)

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 コラーゲン臭がマスキングされた可食性製品

(57)【要約】

【課題】コラーゲン臭がマスキングされたコラーゲン入り可食性製品の提供。スクラロースのコラーゲン臭のマスキング剤としての新規用途の提供。

【解決手段】スクラロースを含有することを特徴とするコラーゲン臭がマスキングされたコラーゲン入り可食性製品、スクラロースを有効成分とするコラーゲン臭のマスキング剤。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】スクラロースを含有することを特徴とする、コラーゲン臭がマスキングされたコラーゲン入り可食性製品。

【請求項2】スクラロースを有効成分とするコラーゲン臭のマスキング剤。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、コラーゲン臭が有意にマスキングされたコラーゲン入り可食性製品に関する。更に本発明はスクラロースのコラーゲン臭のマスキング剤としての新たな用途に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来からコラーゲンは、ゼラチンとしてさまざまな加工食品に利用されており、また可食性食品包装材、化粧品基材等のバイオマテリアルへの応用といった幅広い分野でも利用されている。

【0003】またコラーゲンは真皮や結合組織中の主成分であることから、最近その美容における効果が注目されており、多くのコラーゲン入り食品が開発されている。

【0004】しかしながら、コラーゲンは、ゼラチン様の不快臭並びにコラーゲン特有の不快味を有している。このため、食品にコラーゲンを配合することにより食品自体の美味しさが損なわれる場合もあり、またその不快臭や特有の味からその用途並びに適用範囲が限られるという問題がある。

【0005】このため、従来からより広くコラーゲンが適用できるように、コラーゲン臭を抑制するための工夫が種々検討されている。

【0006】しかし、スクラロースを含有することによりかかるコラーゲン臭のマスキング効果が得られることについては知られていない。

## 【0007】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、コラーゲン臭がマスキングされたコラーゲン入り可食性製品を提供することを目的とする。また、本発明は高甘味度甘味料であるスクラロースの新たな用途を提供することをも目的とする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意研究を重ねたところ、意外にも甘味料の一種であるスクラロースを、コラーゲンを含有する食品に添加配合することによってコラーゲン特有の不快臭並びに不快味をマスキングすることができ、非常に飲食しやすい食品が調製できることを見いだした。本発明はかかる思わぬ知見に基づいて完成されたものである。

【0009】すなわち、本発明はスクラロースを含有することを特徴とするコラーゲン臭をマスキングしてなるコラーゲン入り可食性製品である。更に本発明は、スク

ラロースを有効成分とするコラーゲン臭のマスキング剤である。

## 【0010】

【発明の実施の形態】本発明においてスクラロースとは、ショ糖分子内のフルクトース残基の1、6位およびグルコース残基の4位の三つの水酸基を塩素分子で置換した構造をしており、ショ糖の約600倍の良質の甘味を示す高甘味度甘味料である（英国特許第1543167号）。

10 【0011】本発明が対象とするコラーゲン入り可食性製品には、コラーゲンを含有するものであって口から摂取できるものであれば、特に制限されずいずれのものをも含まれる。例えば、食品や経口用の医薬品又は医薬部外品のように経口的に摂取されるもののみならず、口紅やリップクリームのように口内に入っても問題のないものも包含される。

【0012】具体的には、特に制限されないが、例えば食品としては、果実飲料、茶系飲料、コーヒー飲料、清涼飲料水、粉末飲料、乳飲料、乳酸菌飲料、炭酸飲料、  
20 栄養飲料等の飲料；キャンディー、ガム、錠菓、グミキャンディー、スナック等の菓子類、ゼリー、杏仁豆腐、ムース、ヨーグルト等のデザート食品、ケーキ、クッキー又は饅頭等の洋・和菓子類、アイスクリームやシャーベット等の冷菓などの嗜好食品一般；もちやインスタント米飯などの米飯類；うどん、ラーメン、パスタ等の麺類；即席スープ、ポタージュ等のスープ類及びその即席粉末食品；ケチャップ、マヨネーズ、ウスターソース、トンカツソース、ドレッシングやタルタルソースなどのソース及び調味料類；コラーゲンケーシング及びそれを用いて調製されたソーセージ類等の食品；コラーゲンを  
30 用いた医薬用カプセル基材及び該基材を有するカプセル剤等の医薬品；コラーゲンを配合した口紅やリップクリーム等の医薬部外品又は化粧品等を挙げることができる。

【0013】本発明に係るコラーゲン臭がマスキングされた可食性製品を得るためには、結果的に最終製品にスクラロースが含有されればよく、スクラロースの配合の時期や順序等を問わない。また、スクラロースの配合方法も特に制限されず、粉末や顆粒状等といった固体状のスクラロースを配合しても、また溶液状態にしたスクラロースを配合してもよい。

【0014】本発明の効果をj得るためのスクラロースのコラーゲン入り可食性製品への配合割合は、製品の種類又はそれに含まれるコラーゲン量によって異なり一概に特定できないが、コラーゲンを3重量%の割合で含む製品の場合を例にあげると、通常食品100重量%あたりスクラロース0.0001~0.05重量%、好ましくは0.0001~0.01重量%の範囲から適宜選択して用いることができる。なお、スクラロース自体の甘味は0.0006重量%程度以上の配合で明瞭に感じられ

てくるため、甘味料を兼ねて甘味の発現を求める場合はその濃度以上で使用し、また甘味を控えたい場合にはその濃度未満で使用すればよく、かかる量は当業者が通常能力の発揮により任意に調節しうるものである。

【0015】本発明によれば、スクラロースの配合によってコラーゲン臭並びにコラーゲンに特有の不快感をも有意にマスキングすることができ、食品の美味しさ並びに製品の香いを損なうことなく、健康並びに美容により製品を調製することができる。

【0016】更に本発明は、高甘味度甘味料であるスクラロースを有効成分とするコラーゲン臭のマスキング剤である。当該コラーゲン臭のマスキング剤は、少なくともスクラロースを含有するものであればよいが、本発明の効果を損なわないことを限度に、例えば防腐剤、安定剤等といった他の食品添加物、医薬上又は衛生上許容される添加物を含んでいてもよい。

【0017】本発明のコラーゲン臭に対するマスキング剤は、粉末や顆粒状等といった固体状または溶液状のいずれの形態を採っていても良く、これらの形態で前述する各種製品の調製の任意の段階に添加配合して用いられる。かかるマスキング剤の適用対象は、コラーゲンを有\*

\*する製品であれば特に制限されないが、特にコラーゲン臭又はコラーゲン特有の味が製品の価値に影響を与えるようなものであることが好ましく、例えば前述する食品、医薬品、医薬部外品のほか、ローション、乳液、ファンデーション等の化粧品等も含まれる。

【0018】なお、当該マスキング剤の配合時期は特に制限されない。またマスキング剤の各種製品への配合割合は、前述する本発明のコラーゲン入り可食性製品におけるスクラロースの配合割合に基づいて適宜選択される。

【0019】

【実施例】以下、本発明の内容を以下の実施例を用いて具体的に説明するが、本発明はこれらに何ら限定されるものではない。尚、本発明において部とは、特に記載しない限り、重量部を意味するものとする。

実施例1

コラーゲン（ゼラチン加水分解物）1重量%、水99重量%にスクラロースを下記表1に記載する割合で添加して、パネラー20人にてコラーゲン臭を評価した。

【表1】

スクラロース 添加量(%)	コラーゲンのマスキング効果 があると答えた人数	総合 評価	コメント
0	—	—	ゼラチン様の不快臭がする。
0.0005	12/20	○	若干、不快臭が抑えられている。
0.001	20/20	◎	不快臭が消え、飲みやすい。
0.005	18/20	○	コラーゲンの味が薄くなっている。
0.01	3/20	△	甘味が強い。

【0020】その結果、スクラロースの配合により、コラーゲン特有の不快感並びに嫌味が有意にマスキングできることがわかった。

実施例2

※

※コラーゲン（ゼラチン加水分解物）3重量%、水97重量%にスクラロースを下記表2に記載する割合で添加して、パネラー20人にてコラーゲン臭を評価した。

【表2】

スクラロース 添加量(%)	コラーゲンのマスキング効果 があると答えた人数	総合 評価	コメント
0	—	—	ゼラチン様の不快臭がする。 粉っぽい。
0.0005	8/20	○	若干、不快臭が抑えられている。
0.001	20/20	◎	嫌味が軽減されている。 臭さが抑えられている。
0.005	15/20	◎	臭さが抑えられている。
0.01	4/20	△	甘味が強い。

【0021】その結果、スクラロースの配合により、コラーゲン特有の不快感並びに嫌味が有意にマスキングで★

★きることがわかった。

(4)

特開2000-152757

フロントページの続き

(72)発明者 藤井 美樹

大阪府豊中市三和町1丁目1番11号 三栄  
源エフ・エフ・アイ株式会社内

Fターム(参考) 4B035 LC01 LG15 LG17 LG41 LK03  
LK07